

情報伝達の重要性と 避難行動について

令和7年5月22日
中越市民防災安全士会
会長 岸 和義

本日の学習

長岡市の情報伝達

長岡市では様々な手段で災害に関する情報を発信しています。身近で利用しやすい「My情報源」を持ちましょう。

自主防災会と情報伝達

情報伝達が重要視される理由と、様々な情報伝達が行われていることを紹介します。

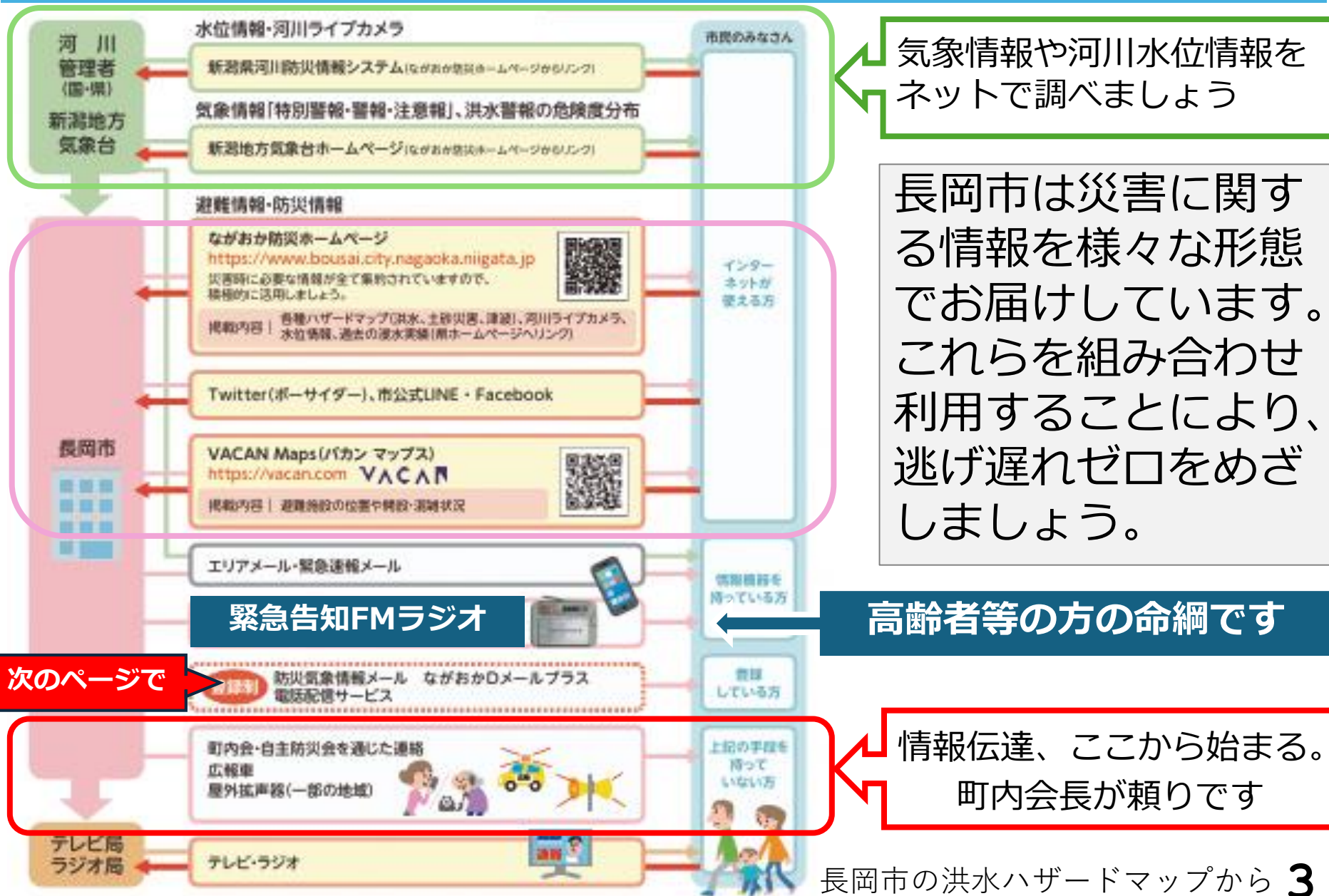
SNS利用の情報伝達

日進月歩のSNS。防災の世界でも身近な存在になっています。使ってみましょう。

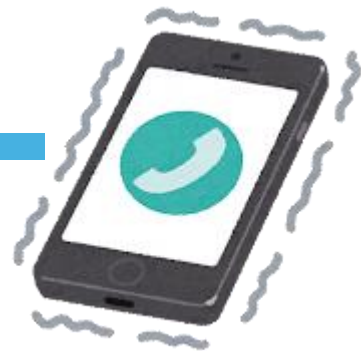
避難訓練のすすめ

情報伝達は避難行動の入り口。さて、情報伝達の次は？

長岡市の災害情報伝達手段の多重化・多様化



ながおかDメールプラスとは



登録されたあなたに必要な情報が届きます。
長岡市外にお住まいでも携帯電話で知らせます。

- 1 危険が迫った地域に伝達！（市内12地域から選択可能）
 - ・長岡川東 ・長岡川西 ・中ノ島 ・越路 ・三島 ・山古志
 - ・小国 ・和島 ・寺泊 ・栃尾 ・与板 ・川口
- 2 市外、県外に住む家族や出張先でも情報を受取れます！
- 3 災害、気象情報をはじめ、様々な危険を知らせます！
 - ・気象情報 ・避難情報 ・鳥獣害情報 ・防犯情報

携帯電話から簡単に登録

素早い情報伝達の重要性

「猛烈な」勢力に

台風19号 (7日18時現在)

大きさ	大型
強さ	猛烈な
方向・速さ	西北西 30 km/h
中心気圧	915 hPa
最大風速	55 m/s
最大瞬間風速	75 m/s

12日(土)15時

11日(金)15時

10日(木)15時

9日(水)15時

8日(火)18時

来るのは
明後日ね？



情報発信できますか？

WN ウェザーニュース

間口の広い防災活動と情報伝達

平常時の防災活動

= 共助

アンダーライン = **自助**

災害食講座

心肺蘇生、AED訓練

耐震補強

初期消火訓練

避難訓練（避難場所に行く）

家具転倒防止

防災学習

- ・ 洪水への備え
- ・ 津波への備え
- ・ 地震への備え
- ・ 火災防止

安否確認用名簿整備

家族連絡方法

情報伝達訓練

避難先を決める

非常持出品の用意

炊き出し訓練

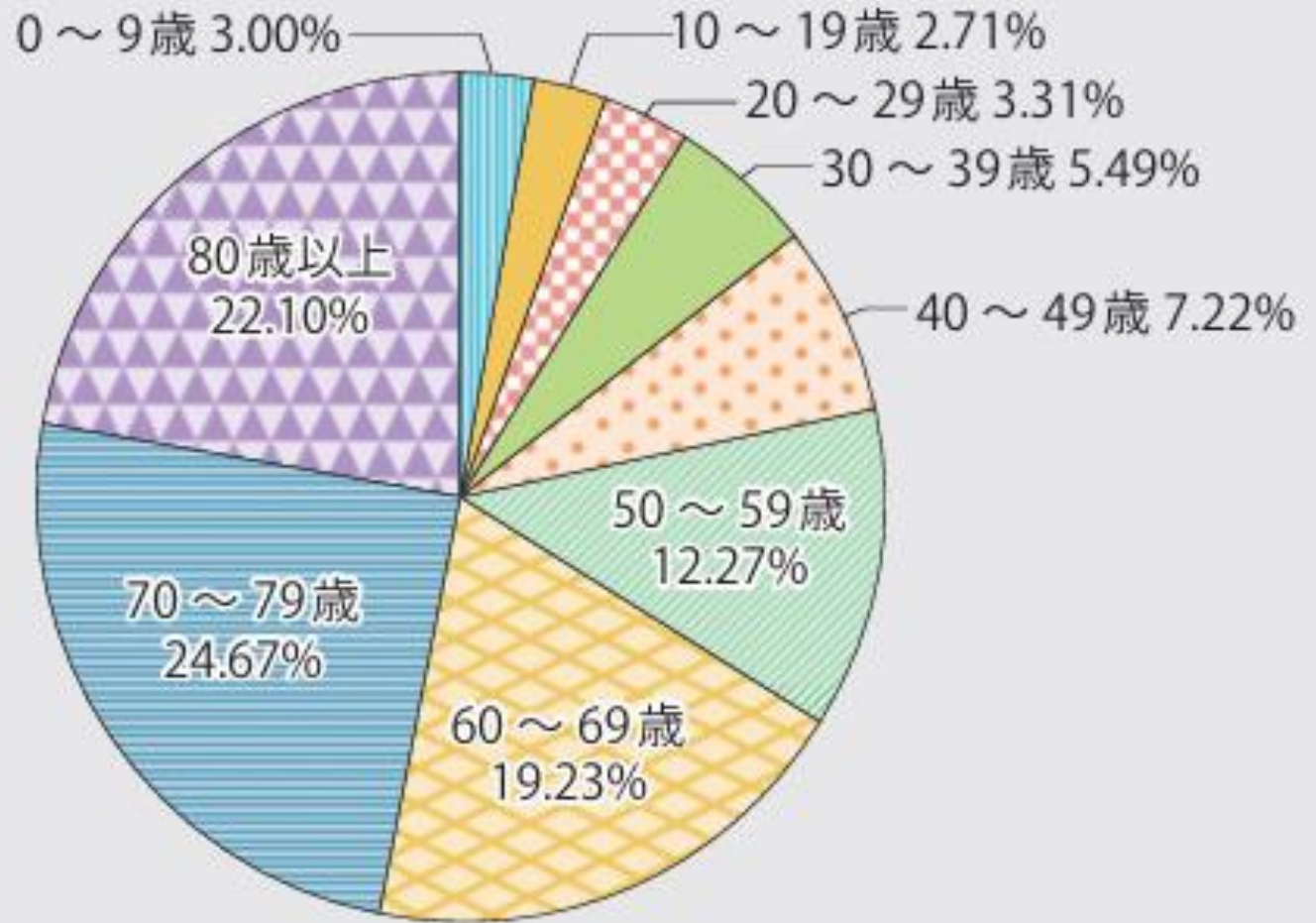
防災庫・機器点検

食料等を備蓄する

共助と並行して自助への啓発も大事です。情報伝達訓練はこれらの中でも優先順位が高いと考えられます。

情報伝達の重要性

東日本大震災による死亡者の年齢別の分布



伝わらない



逃げられない

みんなで守ろう私たちの地域

自主防災会 結成と活動の 手引き

● 自主防災会結成と活動の手引き

風水害のとき

P-8

風水害が発生する前に

情報の
収集・伝達

気象情報や避難情報に
注意し、住民へ伝達する

避難誘導

早めの避難を呼びかけ
避難行動要支援者の避難を
支援する

地震のとき

P-9

大地震が発生したら

情報の
収集・伝達

市などからの
避難情報や緊急情報を
住民に伝達する

避難誘導

隣近所で声をかけあう
避難行動要支援者の避難を
支援する

いずれの災害の時も、「情報の収集・伝達」
が、最初にとるべきアクションです。

なにはともあれ「伝えること！」

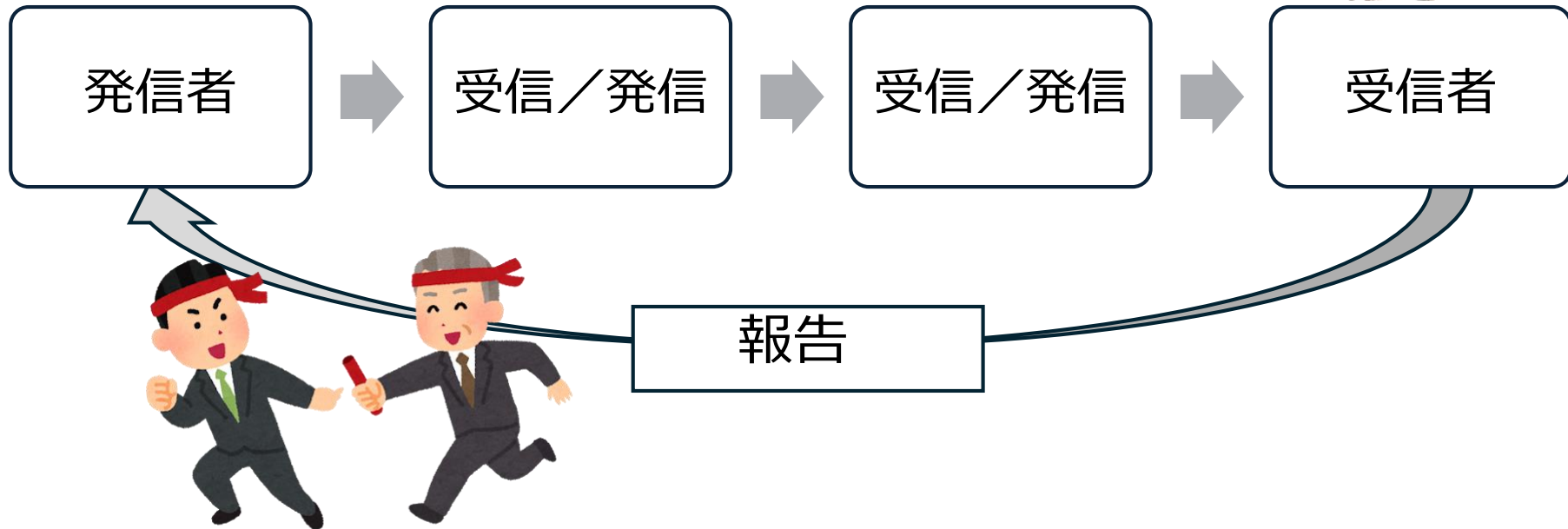
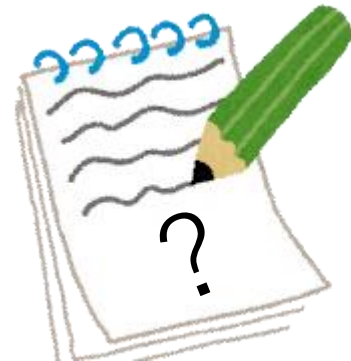
実際の災害発生時には「早く、正確な情報を全住民に伝えること」が最優先されます。



情報を伝えて終わりではなく、避難を支援したり、避難の結果を確認することも必要です。

いつか見た情報伝達訓練

- ・ 伝言ゲーム方式の情報伝達訓練を実施の地域もあります。
- ・ 次の人が不在で伝えるのに時間が掛かったとも。
- ・ いつの間にか伝える内容が変わってしまったという問題も。



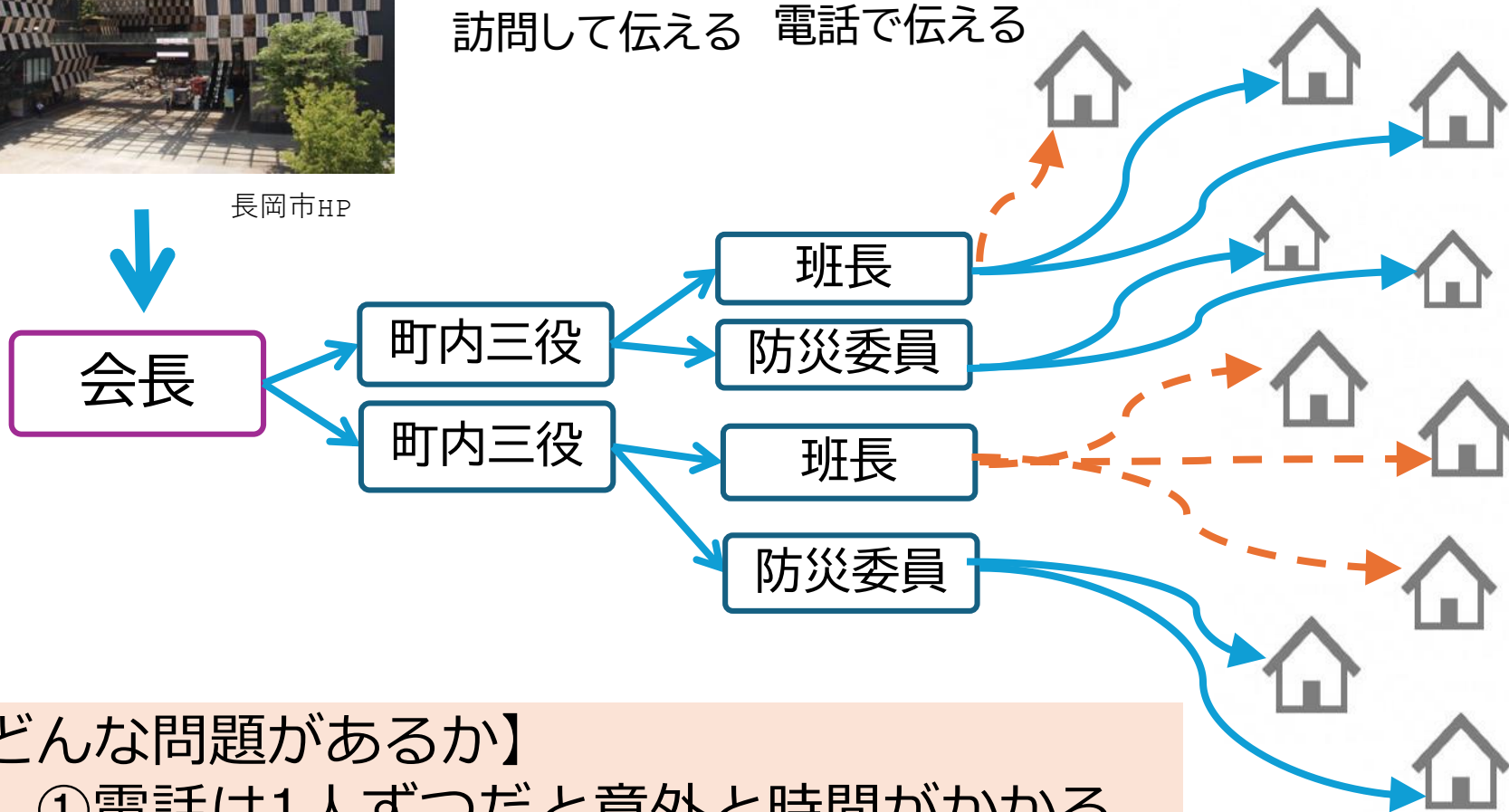
- ・ 「班長が一軒ずつ知らせて回る」もありそうです。
- ・ 「班長が一軒ずつ電話で知らせる」というのもあります。
- ・ 「班長が一軒ずつチラシを配る」という町内もあり。

情報伝達の事例

(電話などでの伝言)



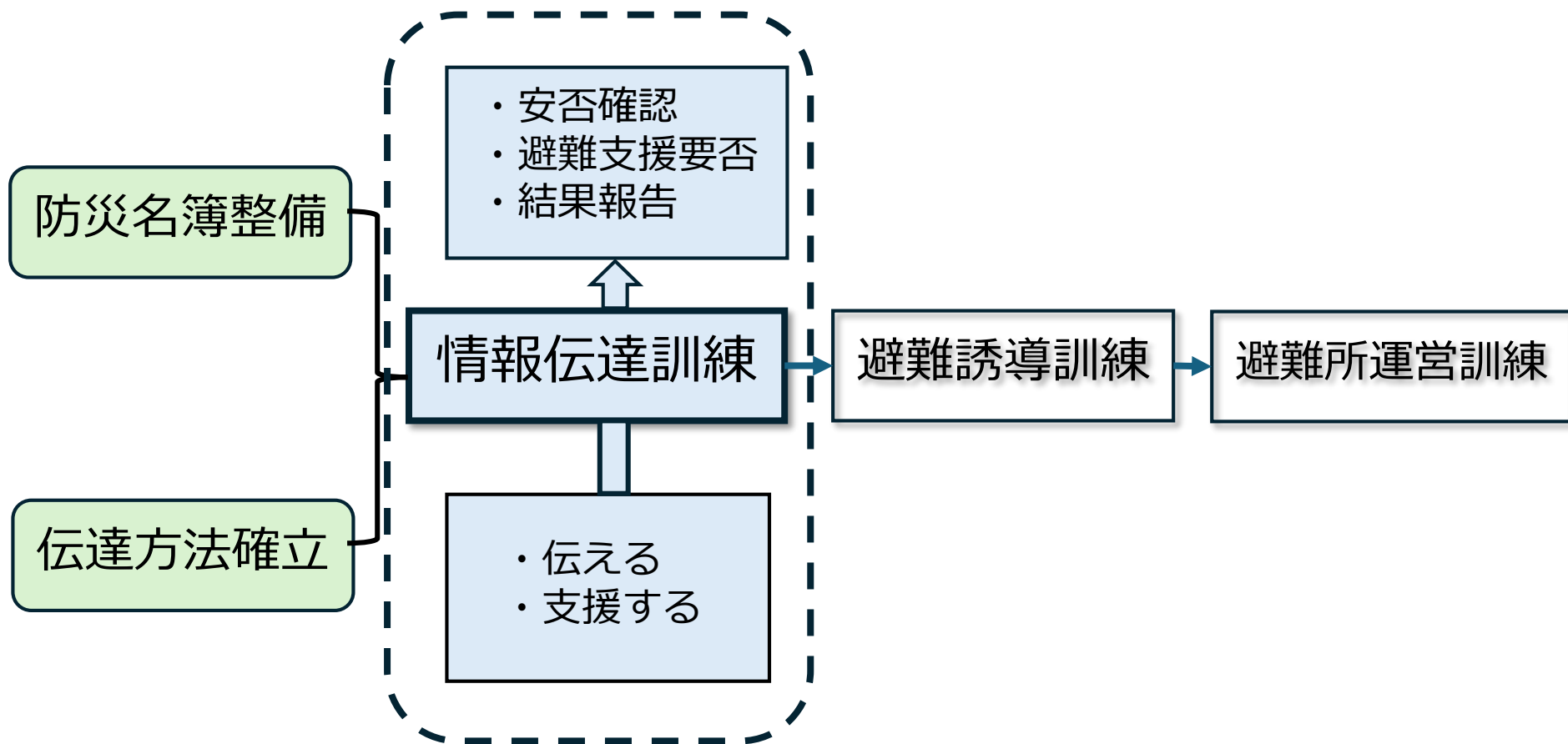
長岡市HP



【どんな問題があるか】

- ①電話は1人ずつだと意外と時間がかかる。
- ②班長不在時には伝達が混乱する。

伝達訓練は「結果の報告」等も含みます



これら複合的な活動を迅速に進めるには
情報伝達のスピードアップが求められます。

SNSを使った情報伝達に

従来の方法と新しい情報技術を組み合わせて



従来方式での情報伝達

+



全員でなくともSNS利用で迅速伝達

従来の「伝言ゲーム方式」や「役員、班長が家庭をまわって伝える」方式は、時間が掛かるなどの問題がありますね。

SNSが備える防災機能

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）とは、インターネットを通じて情報を共有したり、コミュニケーションを取るためのサービスであり、そのための仕組みです。

災害時におけるSNS活用のメリットは、情報収集と情報発信の迅速さ、情報量の多さや、つながりやすさなどがあげられます。

【SNSで情報発信、情報収集できること】

- 1, 避難指示に関すること
- 2, 災害発生状況（広域）
- 3, 自分の地域での被害発生状況
- 4, 安否確認
- 5, 避難場所、避難所に関すること
- 6, 救護要請

様々なSNSアプリと浸透度合い

【令和5年度】主なソーシャルメディア系サービス／アプリ等の利用率

	全年代(N=1,500)	10代(N=140)	20代(N=217)	30代(N=241)	40代(N=313)	50代(N=319)	60代(N=270)	男性(N=760)	女性(N=740)	70代(N=296)
LINE	94.9%	95.0%	99.5%	97.9%	97.8%	93.7%	86.3%	93.3%	96.5%	64.2%
X(旧Twitter)	49.0%	65.7%	81.6%	61.0%	47.3%	37.0%	19.6%	49.9%	48.1%	7.1%
Facebook	30.7%	10.0%	28.1%	44.4%	39.3%	32.6%	18.9%	32.8%	28.5%	11.1%
Instagram	56.1%	72.9%	78.8%	68.0%	57.2%	51.7%	22.6%	48.8%	63.6%	9.5%
YouTube	87.8%	94.3%	97.2%	97.1%	92.0%	85.6%	66.3%	89.6%	85.9%	39.9%
ニコニコ動画	13.7%	23.6%	24.4%	17.8%	10.5%	9.4%	5.2%	16.4%	10.9%	2.0%
TikTok	32.5%	70.0%	52.1%	32.0%	26.8%	25.4%	13.0%	29.2%	35.9%	3.7%

令和6年6月 総務省情報通信政策研究所

LINE, Twitter, Facebook, Instagram, YouTube など様々なソーシャルメディアがありますが、LINEは多くの年代における利用率が高く、防災に使える機能もあることから、自主防災会として使い始める選択肢の一つと考えられます。

SNSを導入した場合のメリット

- ◆加入者が多ければ、大事な情報を大勢に瞬時に伝えることができる。
- ◆加入者が多ければ、非加入者をカバーしやすい。
- ◆刻一刻と変わる状況を随時発信することができる。
- ◆住民は情報の受け手にとどまらず、情報発信者にもなれる。
- ◆現場写真やメモなどの画像を送受信できる。

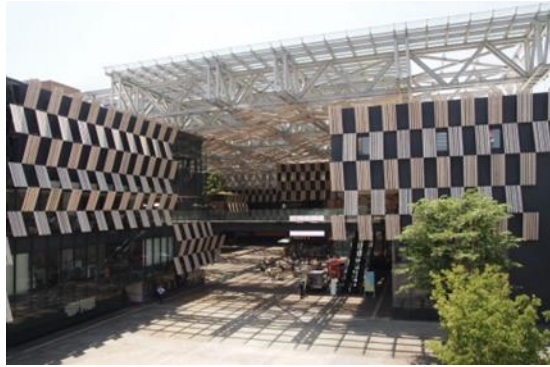
はやい

救助要請
できる

一方で、注意点としては

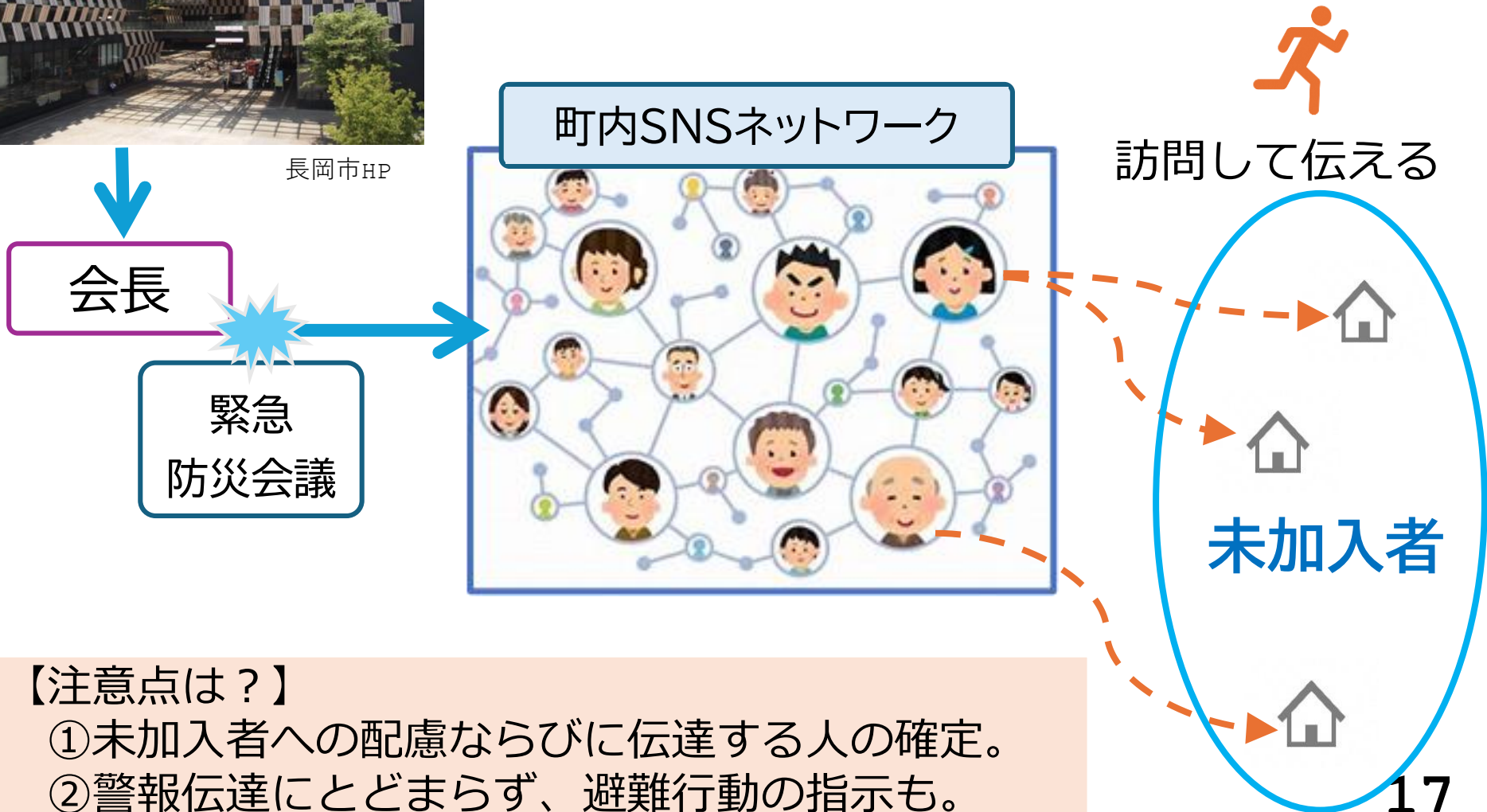
- グループに入っていない人への伝達方法を決めておく。
- 時々訓練を兼ねて連絡しあうことも必要。
- 使い方、情報の出し方など、基本についてルール化を。

SNSを使った情報伝達例



長岡市HP

瞬時伝達



【注意点は？】

- ①未加入者への配慮ならびに伝達する人の確定。
- ②警報伝達にとどまらず、避難行動の指示も。

町内でSNSを利用する前に

- ① SNS管理者を決める（ネットワーク構築、管理）
- ② SNSに載せる情報を決める
（防災関係情報のみ？ 他の用途も視野に入れて活用したい）
- ③ 地域でSNS導入の狙いなどを周知し、多くの参加者を募る
（防災のみならず町内の多くの情報
伝達がSNS利用でスピードアップ）

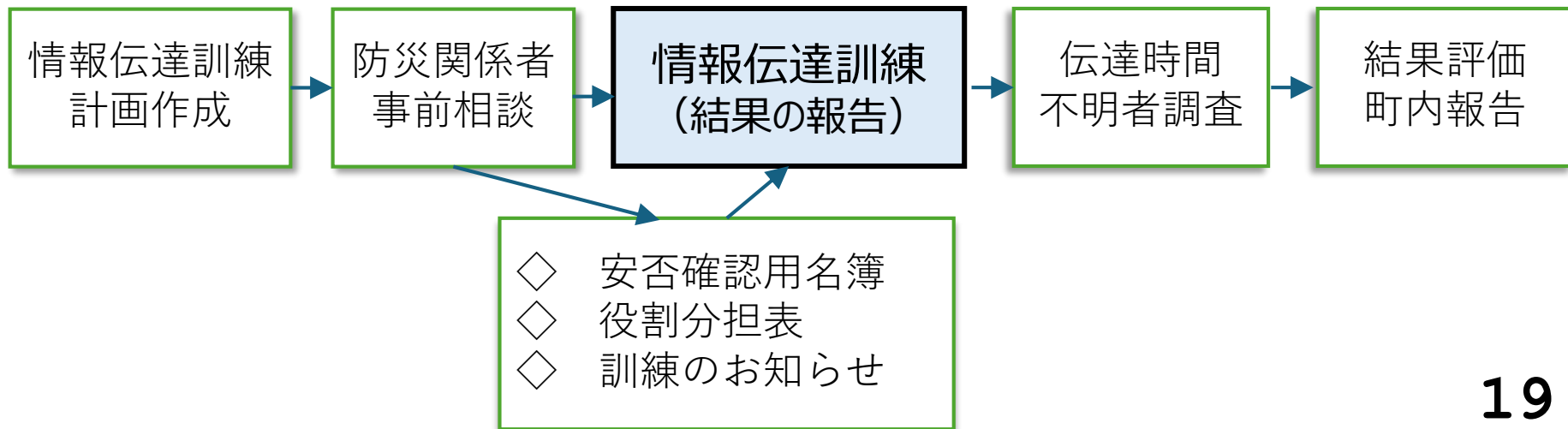


- ④ 情報伝達方法、安否確認の
ルールを作り周知し、訓練する。

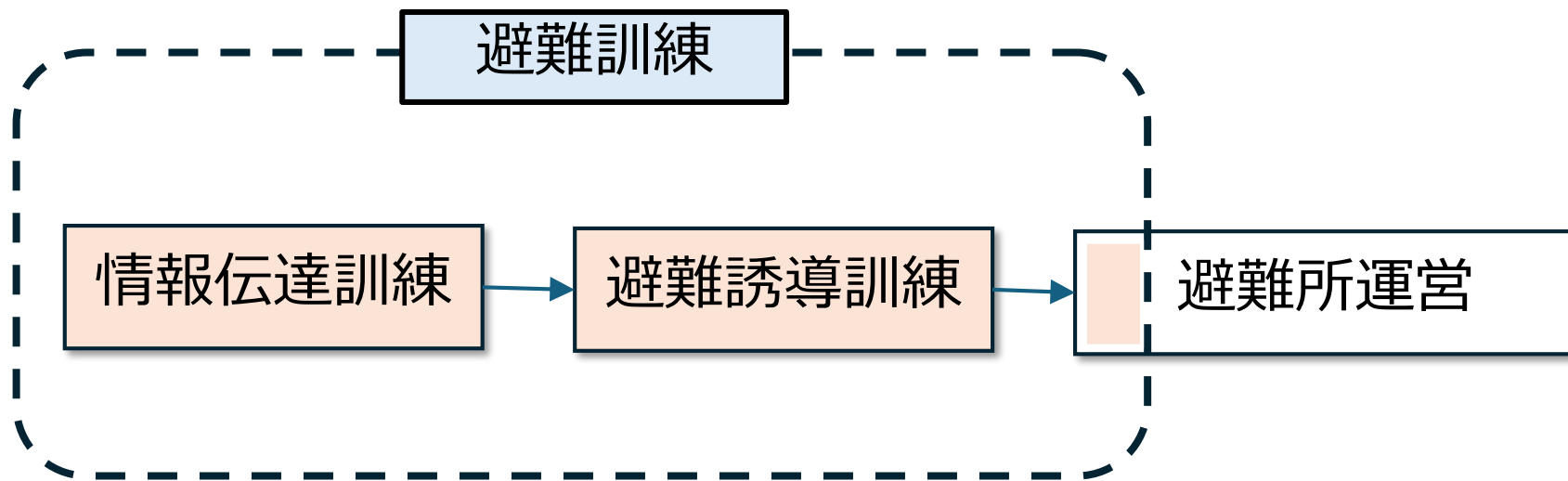
情報伝達のまとめ

訓練が大事!!!

- 毎年6月に長岡市から推奨されている「情報伝達訓練」に参加しましょう
 - ◆ 平常時にじっくりと訓練に取り組み、あなたの町内の問題を抽出し、課題解決に取り組みましょう。
- 訓練実施にあたり、名簿の整備、避難行動要支援者宅の確認を行いましょよう。



避難訓練と組み合わせてみませんか



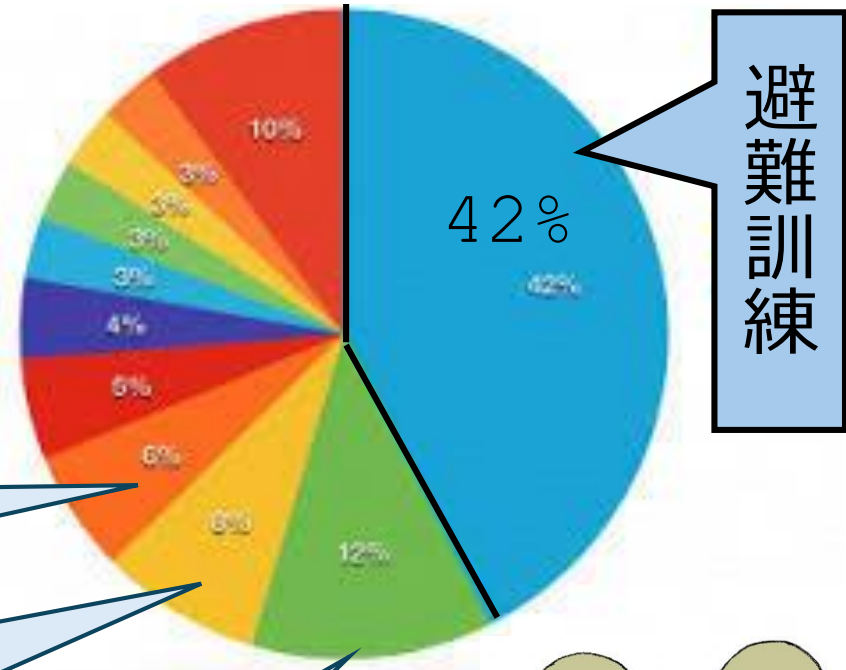
避難訓練は「自宅から避難場所への移動」だけではありません

避難訓練の狙いには「避難経路の確認」、「避難時の装備持ち出し品の確認」、「安否確認訓練」、「避難場所の確認」等があります。

避難訓練にも挑戦を

長岡市の自主防災会のデータ：令和元年
(中越市民防災安全士会集計)

- ・起震車で地震体験
- ・煙体験車
- ・炊出し訓練
- ・土嚢作り
- ・情報伝達訓練
- ・危険箇所パトロール
- ・防災マップ作り
- ・避難所運営訓練
- ・簡易トイレ作り
- ・安否確認訓練
- ・消火栓点検
- ・防災ゲーム
- ・防災講話
- ・災害食



応急手当

初期消火

機器点検
・
防災庫

避難訓練



多様な避難訓練

長岡市内の自主防災会では様々な避難訓練が行われています。移動訓練で終わらないようにしましょう。

長岡市の複合型避難訓練

- ①一時避難所へ集合し終了
- ②避難 + 消火訓練
- ③避難 + 応急手当
- ④避難 + 安否確認
- ⑤避難 + 安否 + 講話
- ⑥避難 + 安否 + 応急手当
- ⑦避難 + 安否 + 炊き出し
- ⑧避難 + 応急手当 + 消火
- ⑨避難 + 応急手当・機器点検・炊き出し
- ⑩避難 + 応急手当/消火・要支援者搬送
- ⑪避難 + 災害食作成
- ⑫避難 + 豚汁懇親
- ⑬一時避難所から一次避難所へ



服装も！

せめて避難用
リュックの中身の
点検を！

安否確認もセットで行いましょう



【安否確認の目的】

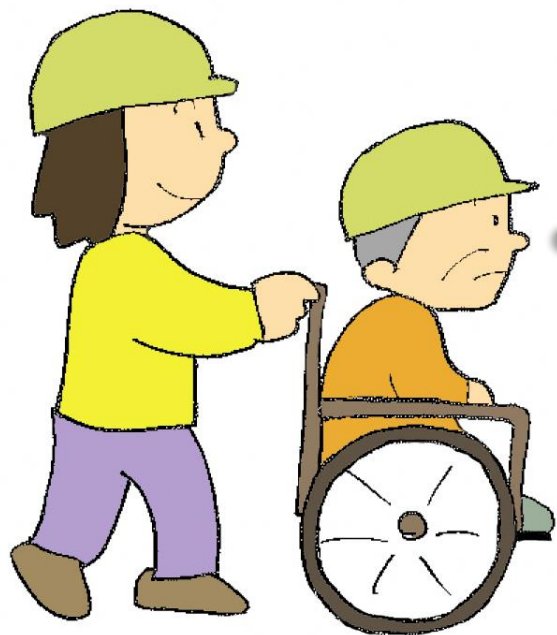
- 「情報伝達」は目的ではなく、命を守るための手段です。
伝えた結果、全員が安全であることを確認するのが安否確認です。

SNSなどに依存しない情報伝達もあり！

高齢者が多い中小規模の地域ではSNSでの情報伝達に依存せず、「日頃のつながり」を活かした情報伝達 & 避難訓練も有り！です。

● 普段の話し合い

- ・ 消息、健康を確認
- ・ 災害、避難についての話し合い



誰が助けてくれるの？
どこに避難するの？

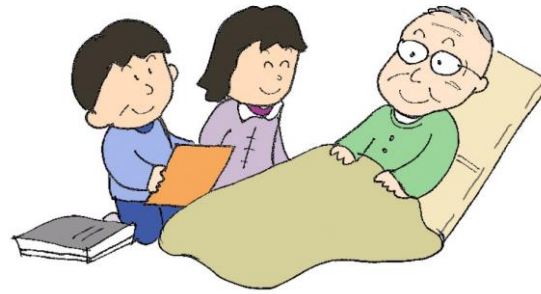
まとめ

伝える前の準備あり

「防災名簿整備」

「要支援者との話し合い」

「訓練計画」



伝えて終わりでない～究極の目的は？

「避難支援要否見極め」

「避難所移動支援」

「安否確認」

「報告」

